

生活知恵袋

せいかつちえぶくろ

Vol. 84

今月のテーマ 貯める(溜める)目的と手段

先月号までは借りることについて考えてきたが、今月は“貯める”について考察してみよう。

では、例によって言葉の意味から調べてみよう。

【貯める】蓄えること(お金を貯める)

【溜める】無駄にせず備える(水を溜める)

辞書を引いてみると単純明快で、文字こそ違えども、“貯める”はお金に関して使われているが、基本的にはどちらも同じような意味と理解して良いような気がする。直訳的に見ても、どちらも大切であり大事なことだ。殆どの人が“貯めよう”、“貯めなければ”と書いていても、これがなかなかままならない。溜まらなくても良い、体脂肪やコレステロール、はたまた仕事やストレスは溜まる一方だが、どういう訳か貯まってもらいたいお金や時間などは、出て行く一方ではないか…。これは、一体全体どうなっているのか…。ん!?わたくし事でした…もとい!

一見、誰もがその必要性を認める“貯める(溜める)”ことが、皆さんなかなか苦勞をしているようだ。もちろん私を含めてだが…。もっとも、誰もが簡単に出来ているのであれば、改めて考える必要はないが、将来を設計するには避けては通れない問題だ。

では、なぜ人々は“貯めよう”、“貯めなければ”と思い、何のために貯める必要があるのだろうか?

一見、単純そうなこの問いに対し、明確に即答できる人が少ないのは意外でもある。

「将来のために…!」「夢を実現するために…!」「万が一に備えるために…!」「無駄遣いしないために…!」どれもがもっともらしいし、大切なことだが何かピンとこない。具体的な目的が無く、漠然とした理由のままでは、貯めるためのエネルギーが湧いてこないような気がする。

では、なぜ貯まらないか…?多くの方が日々の節約に奮闘し、やりくりの努力をしていることはよ〜く承知している。しかし、なんだかんだ言っても“貯まらない”のは事実であり結果だ。貯めることが必要である以上、“貯まらない”という事実は将来的にどういう結果を招くのか考えねばならない。

今月もなんだか面倒くさいことになってきたが一緒に考えてみよう。“お前はどれだけ貯めているか”って…!!

…“貯める”エネルギーを探すため、一緒に考えてみよう。



貯まる家庭と、貯まらない家庭

世の中には、一般のサラリーマン家庭の中でも、貯まっている家計とそうでない家計が存在する。では、その違いは何処にあるのだろうか?

もちろん、家計の収支状況にはそれぞれの特殊性があることも事実であり、一概には測れない。年齢や職業、家族の構成だけでなく、教育費や介護など、家族の健康状態などによって大きな影響があるし、貯まらない理由を家計のやりくりだけのせいにはできない。

ここでは、あえて一般論として言わせてもらうが、貯蓄が出来ている家計と出来ていない家計では、必ずしも収入が多い家庭が多く貯められていて、少ない家庭では貯められていないかというところ、どうやらそうではないようなのである。

世帯年収が1000万円を超える世帯も、半分の500万円の世帯も同様に貯蓄が出来ないと悩んでいる。収入が多いほど貯まりそうなものだが、必ずしもそうではない。貯蓄が出来ないと悩む家庭も少なくない一方、世帯年収が低くてもコツコツと貯めている家庭もある。

貯められない理由と原因

その原因は簡単に判明はしないが、極端な経済的理由を除けば、何かしら理由はある筈だ。それぞれの家庭ごとに原因は当然違ってはいる筈だし、一つの理由であるとも限らない。ましてや自身の事となると見えないもので、まさに“灯台下暗し”なので



齋藤廣勝(さいとう ひろかつ)
株式会社トータルライフサポート代表取締役
・CFP®ローティファイドファイナンシャルプランナー
・1級ファイナンシャルプランニング技能士
・日本商工会議所 年金・退職金等認定講師
・住宅ローンアドバイザー
・金融広報アドバイザー

保険と暮らしの相談センター

住宅ローンの見直し相談会実施中!!

ひとつでもあてはまる方は、お気軽にご相談ください!!

- 現在の返済額を軽減したい
- 住宅ローンを借りているが、一度も見直したことがない。
- 現在借りている住宅ローンの内容がよくわからない。
- 借換と繰上返済、それぞれの効果を比較したい。

お気軽にご相談ください。

株式会社 トータルライフサポート

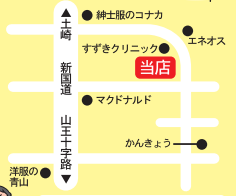
〒010-0916 秋田市泉北3丁目17-22

●営業時間：9:30~19:00 ●休休日：水曜日

TEL 018-827-7611

FAX 018-827-7610

URL <http://tls-akita.co.jp>



詳細はホームページでもご覧いただけます。

ある。しかし、その理由さえ判明すれば、解決の策が見つかるかもしれない。自身では足元が見えないだけに、客観的に家計の身を鳥瞰してみようではないか。秋田県に居て普通である状況を他の都道府県と比較することで、秋田県民の立ち位置が、どの辺にあるのかが見えてくるはずだ。

まずは、2012年厚労省による都道府県別常用労働者現金給与総額(月額)は調査報告によると、秋田県は25万2284円で47都道府県中44位、東北では最下位となっている。一方、2012年総務省統計局「家計調査」都道府県庁所在都市における1世帯1カ月平均の消費支出金額を見てみると26万4463円で47都道府県中5位、東北では1位となっている。収入は下位で支出は上位…!

では貯蓄額という平成21年全国消費実態調査報告「都道府県別貯蓄現在高」を見てみると秋田県は42位となっている。

秋田県は収入が低くて支出は高い、ゆえに貯蓄額が少ないと見て取れるが、皆さんはこの現実をどう理解するだろうか?短絡的な判断は出来ないが、乱暴な言い方をすれば、「貯まらないのは使うから」とも言える。生活するために消費支出がある訳だから、それ自体を全否定は出来ないにしても、秋田県民の収支事情が他の都道府県と、こうも違っていることを考えれば、真摯に受け止め、支出のあり方を改めて考えてみる必要性がありそうだ。

貯めなければならぬ理由

殆どの方が、貯める必要性を漠然とは感じているが、「何のために・何時までに・いくら」と具体化している方は少ないようだ。将来に使うべき目的がなければ、何も苦勞して貯める必要はないようにも思えるが、人生何が起きるかわからない。急な病気やケガによる出費もあるだろうし、会社都合や経済情勢による収入の減少もあるかもしれない。「緊急予備資金」として、最低限の蓄えはしておきたいものだ。

その金額は、それぞれの生活水準や、負債などを含めた支出も当然異なるし、一概に決めつけることは少し乱暴かもしれないが、毎月の生活費の3ヶ月・6ヶ月分くらいを目安としていただきたい。さて、改めて具体的な貯蓄の必要性を考えてみよう。その中身は、それぞれの家族構成や年齢、

職業や収入、趣味や夢などで大きく異なってくる。将来、必然的に必要となる資金と将来への目的や思いが整理できれば、目的毎に、「何時までにいくら貯めなければならぬか」が見えてくる筈だ。お金に限った訳ではない。ダイエットの継続も、スポーツの厳しい練習も、試験のための勉強も、仕事上の営業成果も、明確な目的・目標に支えられてエネルギーが湧いてくるというものだ。漠然とし、緊張感もないまま、出来たらいいなあ…!では、ズルズルと成果も結果もでないまま推移してしまいかねない。

まずは、目的・目標を具体化させる作業から始めてみよう。

貯める難しさ

分かつちやいるんだけどねえ…!そう、本当は多くの方がその必要性を理解しながらも、これがなかなか出来ていない。子育て中のパパ・ママの、無駄遣いしないで貯めておきなさい、欲しいものがあつたら貯めてから買いなさい、との顔、と声が聞こえてきそうだが、そう言う当の親はいかかものでしょうか?心当たりのある方は、私も含めて少なくないと思います。貯める必要性が明確である以上、今から出来ることを始めようではありませんか。

とは言っても、そんなに簡単に出来るもんじやない。今の生活だって目いっぱい努力して遣り繰りしているんだ。という声も聞こえてきそうだが、じゃあこのまま何もできなければどうなるの?そう、何も変わってはいかないし、何も改善しない…!

“そうだ、ローンがある、クレジットカードがある、リボ払いがある、キャッシングだってある…!?”もちろん、これは有効な解決策にはなり得ない。

貯める目的の具体化

この作業の結果は、人によって実に様々だが、少し考えれば意外と簡単に整理できてしまう。洗い出しやすいように、主な項目を挙げてみるとしよう。

- ① 住宅関連の費用(住宅購入・修繕費など)
- ② ことも関連の費用(進学費用など)
- ③ 購入したい物
- ④ 購入しなければならぬ物(冷蔵庫・洗濯機)

- ⑤ 旅行や趣味(家族旅行など)
 - ⑥ 資格取得・習い事(仕事上・趣味)
 - ⑦ 仕事関連(独立開業資金・設備資金)
 - ⑧ 老後の生活資金
- ざっとこんな具合だが、こういう風に挙げてみれば必要資金は少しずつ具体化できるようになる。具体化できた次には、時期や金額を数値化することで、より現実的な計画にと繋がっていく。参考までにその一例を次の表にまとめてみた。

●貯める目的を具体的に数値化した表

	目的資金	必要時期	目標金額	貯める手段
1	住宅購入頭金	5年後	300万円	住宅財形貯蓄
2	マイカー買換え	7年後	250万円	積立(ボーナスから)
3	家族旅行(デイズニーランド)	2年後	30万円	積立定期預金
4	子供の教育資金(大学進学)	15年後	300万円	学資保険加入と“じいじ・ばあば”からの援助
5	老後の生活資金	30年後	700万円	年金保険加入

これらの資金は、一般的な家庭では多くの世帯が該当し、ある意味避けては通れない項目だが、それぞれの目的に対し皆さんはどれだけの準備をしているだろうか?別の言い方をすれば、避けては通れない以上、いまからその準備を始めなければならぬ。

ここまで、貯めなければならぬ理由について考えてきた。それぞれの事情により、その目的や金額は異なるものの、大なり小なり共通の問題だ。来月号では、貯めるための行動・手段について考えてみよう。